

あなたの 化石との思い出を聞かせてください

=== 「化石と私」作文募集 ===

1. 目的

いわき市アンモナイトセンター（以下、センター）は、震災復興支援と「化石の宝庫いわき」を再度アピールすることを目的に「化石と私」と題した作文を募集します。

広くいわき市民の皆さんをはじめ、化石愛好者、研究者、これまでセンターを訪れた全国の皆さん、これから来館を希望される皆さんを対象に、化石への思い出などの化石に関わる作文を募集します。それらを展示し広く皆さんに伝えることによって、化石の魅力や化石を通したいわきのすばらしさを再認識することを目指します。あわせて、興味を持ち続けることの大切さ、調べることの楽しさなどを伝えていく企画とします。具体的には、冬の企画展などで応募作文を選定し、展示する予定です。

2. 募集方法

「作文募集要項」をセンター内、及びセンターホームページに掲載します。

3. 作文のテーマ

「化石と私」、「化石との出会い」、「化石への思い」、「センターと私」など。直接センターに関わりなく、他の地域の化石との出会いでも可能です。

4. 応募規定

1) 応募作文

- ① 200字～400字程度。1人1点まで。
- ② 応募者本人による作文で、未発表のものに限ります。
- ③ 応募作文はメール、郵送でお送りください。郵送では直筆（楷書）、ワープロ打ちも可能です。
- ④ 応募作文の著作権は、センターに属します。センターでは展示会での使用や広報活動に使用します。
- ⑤ 応募作文は、センター側で編集する場合があります。
- ⑥ 郵送の場合、応募作文は返却いたしません。

2) 作文に付属する写真、絵、イラスト（以下、写真等）について

- ① 1人1点。郵送の場合、応募サイズはL～2L判とします。写真等のみの応募は、できません。
- ② 写真等は未発表であって、他に発表予定のないものに限ります。
- ③ 写真等は、応募者本人が撮影・作画したものに限りします。
- ④ 写真等の著作権は、応募者に帰属します。センターでは展示会での使用や広報活動に使用します。
- ⑤ センターがインターネット Web 上で利用する場合には、撮影者の氏名を表示します。
- ⑥ 写真の被写体に人物が含まれている場合は、事前にその方の承諾を得るなど、肖像権の侵害等が生じないように応募者本人の責任においてご確認ください。
- ⑦ 写真等は、使用する際にスペースの関係上、センター側でトリミングする場合があります。
- ⑧ 写真等（郵送）は作品の裏面に天地を同じ方向に貼付し、作品保護のため1枚ずつ透明または半透明のビニール袋に入れてください。送付中の事故や破損については、その責任を負いかねます。
- ⑨ 写真等の返却希望者は、必ず返信用封筒に切手を貼って応募してください。
- ⑩ 他人の著作物を撮影し、それを素材にして加工や合成をしますと、著作権の侵害にあたる場合がありますので注意してください。

5. 応募方法

『「化石と私」作文募集要項』をご承認のうえ、必要事項「住所、氏名（ふりがな）、年齢（30代など）または学年、電話・FAX番号、Eメール」を明記し、下記まで郵送かメールで提出ください。

掲載にあたり、ペンネームの使用は可能です。希望の場合は、明記ください。ただし、応募に際して、ペンネームなどの匿名は受け付けません。

6. 募集期限 平成23年12月16日（金）まで

7. 応募者プレゼント

応募者の中から抽選で、10名の方に透明樹脂アクセサリ（サメの歯入り）作成キット、10名の方にサメの歯化石をプレゼントします（サメの歯は、外国産化石）。

提出及び問合せ いわき市アンモナイトセンター 〒979-0338 福島県いわき市大久町大久字鶴居147-2
電話0246-82-4561 Eメール info@ammonite-center.jp

テーマは、「〇〇化石への思い」、「化石について思うこと」、「化石との出会い」、「アンモナイトセンターと私」など、化石に関する作文ならなんでも大歓迎！どしどし応募ください。

「化石と私」・恐竜大好き少女・

佐藤たまき先生（学名フタバサウルス・スズキイ命名者、東京学芸大学准教授）

今も昔も、恐竜や化石が好きな子供はたくさんいます。私も昔はそうした恐竜好きな子供の一人でした。とにかく小さな時から好きだったので、今となっては何がきっかけだったのかも思い出せないほどですが、幼稚園の時には将来は恐竜を研究する科学者になりたいと思っていました。

母によると、祖母がいろいろな図鑑を買ってくれた中で、なぜか恐竜などの大昔の生物の図鑑がすっかり気に入ってしまったことがきっかけだったようです。昔は今ほど恐竜の絵本やおもちゃの種類がなかったはずですが、それでも親や周りの大人がいろいろ探してくれたのか、恐竜や化石に関する本や人形が何種類も家にありました。ちなみに、こうした図鑑や本には必ず「フタバサウルス発見物語」が含まれていましたので、フタバサウルスに関連する人名や地名は早くから認識していましたし、上野の国立科学博物館が改装される前のフタバサウルス展示を見たものです。当時、女の子はリカちゃん人形、男の子はミニカーで遊んでいるが多かったように覚えています。私は恐竜の人形で遊んでいました。また、お気に入りの恐竜人形を旅先にまで連れて行って行っていたので、当時の女の子にしては珍しかったのではないのでしょうか。

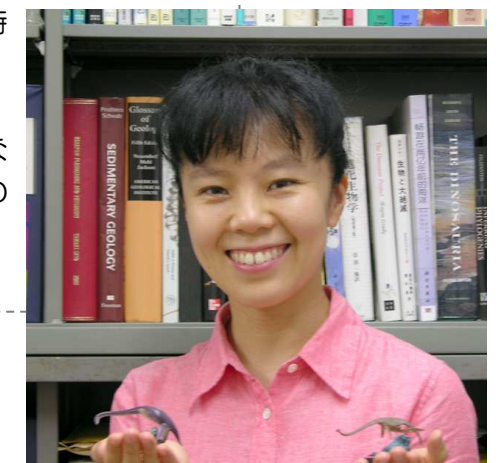
10代は受験戦争の真っただ中の年代でしたので、ときどき恐竜の特別展を見に行ったり本を読んだりするくらいでしたが、恐竜などの大型爬虫類化石を研究する学者になりたいという希望は子供の時から変わりませんでした。（後略）

（タイトルは、センターがつけました）

応募者プレゼント



抽選で透明樹脂アクセサリ作成キット（サメの歯入り、写真は完成見本）などをプレゼント！！詳細は、頁末の応募要項を参照



クビナガリュウの模型を手にする たまき先生

参考 応募作文

「ぼくと化石」

山形県 池田 くん 小学校5年

アンモナイトセンターへお父さんとお母さん、妹とぼくで行きました。行く前は「アンモナイトセンター」の中にアンモナイトがたくさんかざられていたので、ぼくはきっとアンモナイトがたくさんとれるに違いないと思いました。

ところがアンモナイトが取れたのはお父さんだけで、ぼくは貝の化石しか取れず少し残念でした。きっと次はぜったいとるぞ！と思ってもって帰ってきました。

「化石を掘ったこと」

山形県 池田 さん 小学校2年

わたしは、化石をほる前からわくわくしていました。化石をほるとき、石がかたくて割るのが大変でした。わたしは、貝のすこしこわれているのをほりました。お父さんは、アンモナイトをほりました。おにいちゃんも貝をほりました。わたしは、化石がでてとてもうれしかったです。わたしは、いっぱい化石が出てくるのでびっくりしました。だから、おにいちゃんはよろこんでいました。そしておとうさんは、アンモナイトをほったからかすごく満足していました。おかあさんは、わきでみていて化石がたくさんでておどろいていました。

また行きたいです。アンモナイトセンターのみなさんががんばってください。

参考 応募作文

「化石と私たち」

宮城県 藤村 さん 家族

私たち家族の共通の楽しみのひとつに、アンモナイトセンターがあります。

3年程前、子供がとある展示会で恐竜の存在を知って以来、化石に興味を持ち始め、アンモナイトセンターに通うようになりました。

笑いの多いガイダンスは何度聞いても面白く、仙台からだと車で3時間かかりますが、早起きも平気。時には午前中だけに限らず、午後の部にも参加した事が今では懐かしく思われます。いつしか親子で競争するようになり、サメの歯を狙うようになり、限られた時間内に各々が、真剣な表情で集中して発掘するようになりました。

3. 1 1の大震災以来、体験発掘が中止になり、いわきに行けず少々物足りない週末を送っておりますが、震災で被災された皆様、避難を余儀なくされた福島の皆様方が、一日も早く日常生活を取り戻せるよう願うばかりです。

そして、アンモナイトセンターでの発掘の再開を待ち望んでいる全国のファンの方々が、笑顔でいわきに行けるよう、そんな日を心待ちにしております。